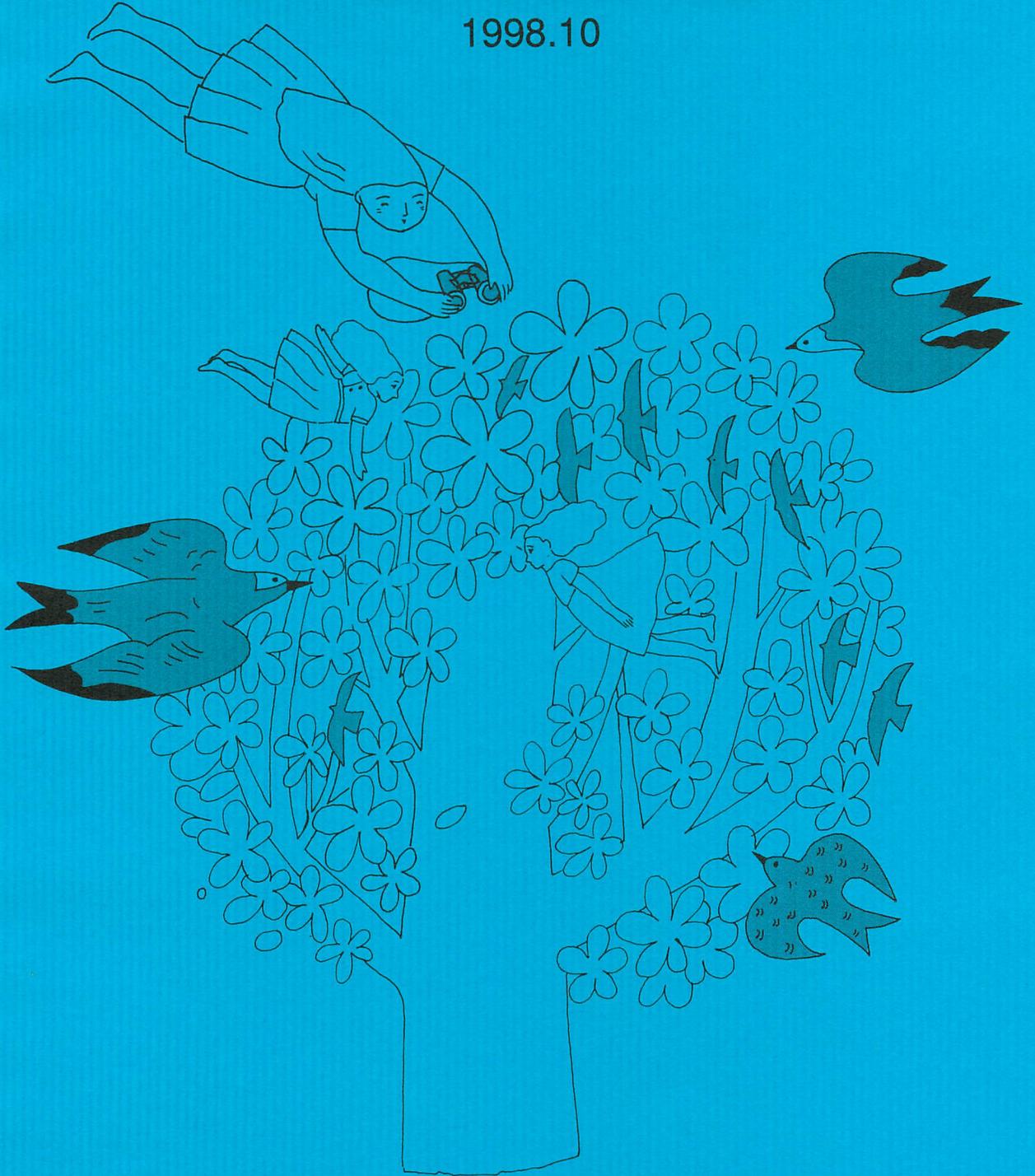


55号

愛鳥教育

1998.10



全国愛鳥教育研究会

愛鳥教育 No.55 1998.10

目 次

平成10年度夏期野鳥観察会報告		平成10年度事業計画 ----- 箕輪多津男	21
谷津干潟観察センターにて ----- 長屋昌治	3	全国愛鳥教育研究会役員の入れ代わり -----	21
諫早湾干潟にて考えたこと ----- 箕輪多津男	4	全国愛鳥教育研究会役員名簿 -----	22
もりまき通信(5)		論説	
鳥の新聞記事を 集めてみませんか ----- 森 真希	8	手で触れる自然接触について ---- 平田寛重	23
書評		「松田道生氏講演会」のご案内 -----	24
賢治鳥類学 ----- 箕輪多津男	10	「地球と遊ぼう'98 in 都立水元公園」のご案内 -	25
教材開発		「自然観察指導法研修会」のご案内 -----	26
シギ・チドリ類観察用 ワークシート ----- 平田寛重	11	編集後記 -----	26
教材開発		愛鳥クイズ ----- 平田寛重	27
谷津干潟での野鳥観察を 中心にした遠足プラン ----- 平田寛重	17		

平成10年度夏期野鳥観察会報告

谷津干潟観察センターにて

常務理事 長屋昌治

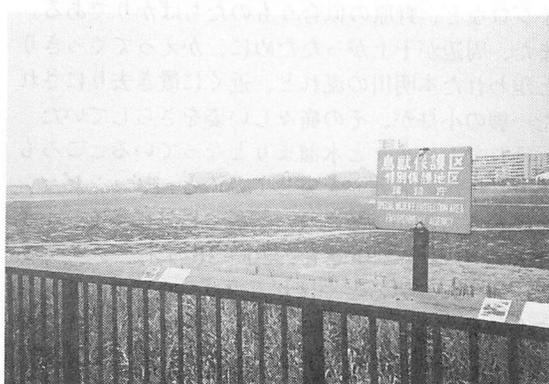
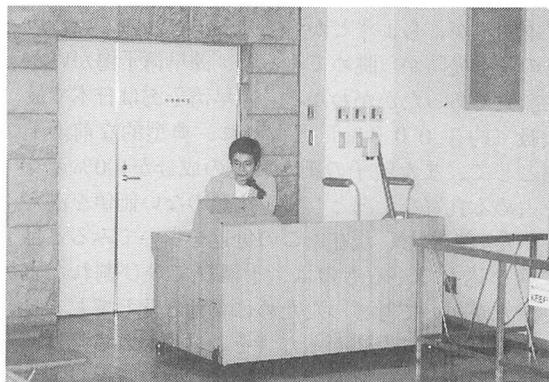
平成10年8月21日（金）、親子を対象に予定した野鳥観察会を、千葉県習志野市にある「谷津干潟観察センター」において行いました。

9時30分に開会し、最初に谷津干潟や水辺の野鳥のビデオを視聴し、自然観察センターの松井淳氏よりお話をうかがいました。その後、野鳥観察を観察センター及び、その周辺で行いました。

谷津干潟は東京湾の最奥部に残された約40haの干潟で、ゴカイ、貝、カニ、魚、そして水鳥など、多くの生き物が生息しているところです。特に、水鳥では、シギやチドリ類が多く、シベリヤなどの北の国と東南アジアやオーストラリアなどの南の国との間を行き来する旅鳥にとって重要な場所になっています。1993年にはラムサール条約の登録干潟にも認定され、国際的にも重要な干潟とされています。

松井氏によると、谷津干潟は泥質干潟で多くの栄養分を含んでいるため、たくさんの小動物が生息でき、それをエサとする水辺の鳥が多く集まるとのことです。年間を通して約100種類の野鳥が確認でき、東京湾周辺では谷津干潟が一番観察できるということです。

今回の夏期野鳥観察会は宣伝不足だったため、参加者が10人と少なく、親子参加が1組もいない、さみしい観察会でしたが、お天気にも恵まれ、潮の引き具合もよく、セイタカシギ、ダイシャクシギ、キアシシギなど36種類もの野鳥を観察することができました。また、自然観察センターの松井氏より野鳥以外のトビハゼの習性やカニの見分け方などの楽しいお話などもうかがうことができ、大変勉強になりました。厚く御礼を申し上げます。



諫早湾干潟にて考えたこと

～失われたものの大きさ～

事務局 箕輪 多津男

6月中旬のとある日、昨年から絶えず気になり続けていた有明海の西側湾奥部に位置する長崎県の諫早湾を訪れた。当日は時折小雨がばらつき、どんよりの雨雲が空を覆い、現在の状況をあたかも嘆いているかのような空気が一面に立ちこめているようにも感じられた。

さる平成9年4月14日に諫早湾の潮受け堤防の締切りが強行された時、大きな憤りをもってその光景(映像)を見つめた方が多かったのではないと思う。その後も、様々な形で見直し運動が展開されているにもかかわらず、堤防の水門は一向に開けられる気配はない。公共事業を促進する側の視野には、野生生物の姿がほとんど入ることはないのであろうか。いや、入ったとしてもその価値について認識できる人が皆無に等しいのかもしれない。

本明川が、ちょうどかつての干潟に注いでいる辺りの防潮堤防から眺めてみると、諫早湾干潟がいかにも広大であったかがわかる。諫早湾干潟は日本で最大級(約3,000ha)と言われ、典型的な前浜干潟として、また粒子の細かい泥の成分が100%近くを占める良質な干潟として、比類のない価値を湛えていた。しかし、現在、この付近を歩いてみると目に飛び込んでくるものは、干涸びてひび割れた土や、水が引いてしまったために草地と化してしまった、変わり果てた姿だった。そこに現われる鳥は、スズメ、セッカ、ヒバリ、ツバメ、カワラヒワ、ホオジロなど、野原の似合うものたちばかりである。また、周辺が干上がったために、かえってくっきりと現われた本明川の流れと、近くに置き去りにされた一艘の小舟が、その痛々しい姿をさらしていた。

それでも、点々と水溜まりとなっているところもあり、干潟の名残りを感じていると、ピョンピョンと跳ねるものが確認された。数も以外に多く、小さな規模の水溜まりでも、20～30のオーダーである。近づいてみるとやはりムツゴロウであった。この魚の強靭さには驚かされる。このような変わり果てた周囲の状況の中で、よくぞ生き延びているもの

である。妙な感動とともに、「諦めないことの重要性」を私たちに訴えかけているような気がして、しばしそこに立ち尽くしてしまった。

そこから、遠くに見える潮受け堤防を目標にしながら、歩き続けた。しかしどこから見た光景も、ひび割れた土か、あるいは一面の草地であった。途中、干拓工事のために締め切られた道路の柵と、立ち入り禁止の看板が立ちはだかるように目に飛び込んできた。かなり奥のほうに、盛り土や、そのために使われているブルドーザー等の姿が見える。工事が進めば進むほど、もとの環境が失われてゆく。打ち拉がれるような気分であったが、柵の上で一羽のホオジロが大変美しい声で囀る姿に、少々慰められる気がした。干潟の反対の方向には、アマサギの飛ぶ姿も見られた。

出発点から4時間程歩いたところで、ようやく潮受け堤防の付近に辿りついた。調整池の水はその日の空と同じようにどんよりと濁っていたが、岸辺に鳥の群れが確認できた。ただし、集まっているのは、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ等のサギ類やトビ、そしてハシボソガラス、ハシブトガラスばかりであった。

日本野鳥の会長崎支部の調査によると、諫早湾干潟周辺で記録された鳥類は、232種にも上るということだが、変わり果てた環境からは、そうした数字が夢のように感じられてしまう。特に、シギ・チドリ類を中心として、干潟に依存する渡り鳥たちにとって、この環境の変化は、決定的な打撃になったであろう。その証拠に、本年4月に記録されたシギ・チドリ類の数は、昨年の堤防締切り直前に確認された約7,500羽から、たったの十数羽に激減してしまった。激減というよりも、むしろ全滅に近い状態である。

鳥ばかりではない。200種以上は生息していたと言われる魚類や貝類、あるいは干潟のシンボルとも言えるカニやエビなどの甲殻類、さらにゴカイや藻類、バクテリア等、確認が不可能な程の生物種がそ

ここに存在していた。ことに、干潟の生態系を支えるベントス（底生動物）の中でも、80種を超えと言われるゴカイの仲間などは、堤防締切り直前にも新種が発見されるなど、日本で最大級の生息地として有名であった。これらすべての生物にとって、未来の扉が全く閉じられてしまったと言えるわけである。

現在我が国では、この諫早湾と同様に、名古屋市のゴミ処分場造成に向けた藤前干潟の埋立て計画や、千葉県の土地造成計画による東京湾・三番瀬の埋立て事業等、各地で重要な干潟が失われる危機に瀕しており、様々な物議をかもしている。ただ、開発側の視野には、どうも失われるものの大きさが、ほとんど実感されることがないように、そのことがより問題を深刻化しているように思えてならない。

現在のような開発行為の進行状況から考えると、未来の自然環境はどうなってしまうのだろうか。少々暗い予測を立てざるを得ない心境ではあるが、しかし、その時代を生きる多くの人々の意識が、自然環境や野生生物に思いを寄せられるような確かなものとなれば、状況は大きく変わるであろう。そのために今、環境教育の重要性が、改めて問われているように思うのである。幼少の頃から、より多くの人がそうした視野を自らのものとしてできるよう、時代の流れを形成していきたいものである。また、一方で、現在起きている様々な現象や出来事について、正しいことも誤ったことも、ともに語り継いでいくことを忘れてはなるまい。そして、正しいことを行う時には、決して諦めないという姿勢も重要であろう。

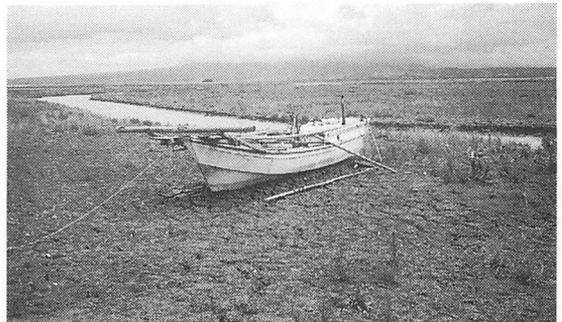
諫早湾の潮受け堤防の外側を、そこから遠ざかるようにしばらく歩いていくと、そこに新たな干潟が目にとまった。よく見ると、ヤマトオサガニやシオマネキ等、無数のカニが顔を覗かせている。命がそこに輝いていた。それは、やはり温かい光景として、胸に残った。希望を失わずにいたいと強く感じた瞬間であった。



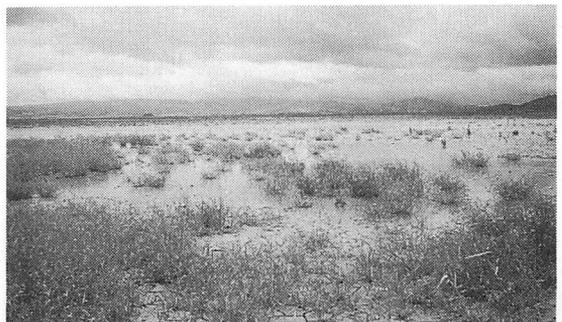
干涸らびてひび割れた干潟



草地と化した干潟



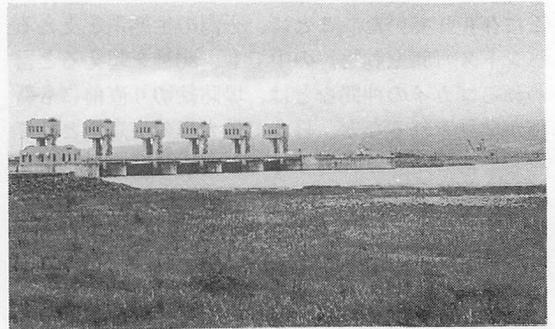
置き去りにされた小舟



ムツゴロウの生き延びている水たまり



ムツゴロウの生き延びている水たまり



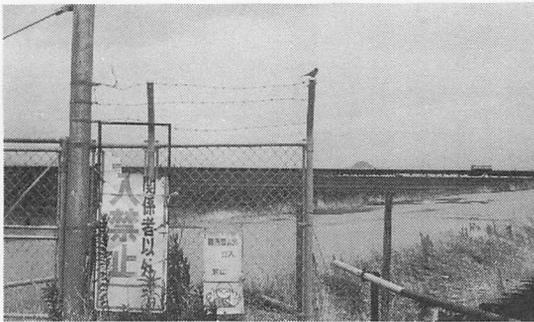
巨大な潮受け堤防と調整池



干拓工事のための立入禁止の看板



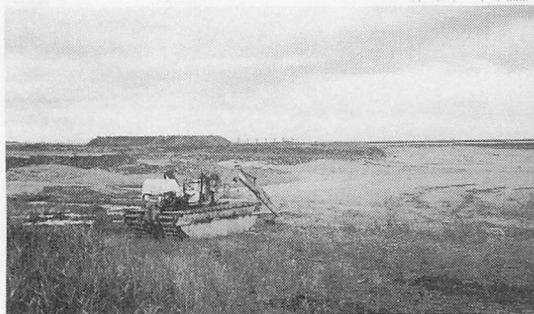
調整池



立入禁止の柵の上で囀るホオジロ



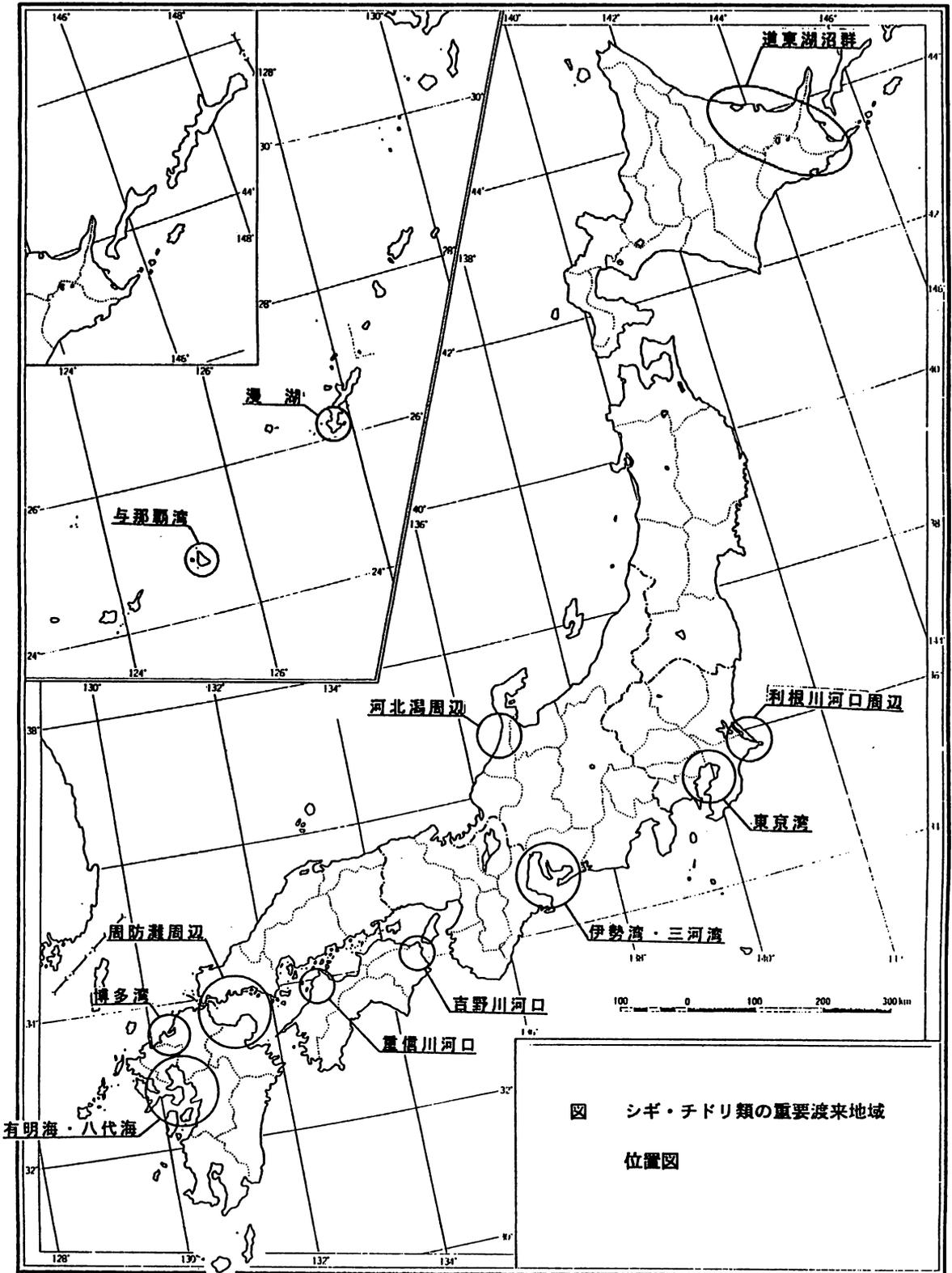
堤防から離れたところにある干潟



置き去りにされたブルドーザー



堤防から離れたところにある干潟



(環境庁自然保護局野生生物課『シギ・チドリ類渡来湿地目録』1997年 より)

もりまき通信(5)

鳥の新聞記事を集めてみませんか

自然観察指導員 森 真希

●情報との付き合い

情報が溢れかえっている現代、例えばある生き物の事について調べてみたいとき、書店や図書館に行けば沢山の図鑑が揃っているし、各地域の自然愛好会などがホームページを開いていたりと、その気になって行動すれば多くの情報を得ることが出来る。新聞記事に関してもそうである。大きな図書館などでは、パソコンでキーワードから欲しい記事を検索できる。また、情報検索を専門に扱っている会社もあり、過去現在において出版されているあらゆる雑誌や新聞から依頼のあった内容に関しての抜き出し、及び輸送のサービスを行っているらしい。ただしお値段が多少張るとか。

パソコン、コンピューターが急速に普及している昨今、このようなデジタル式の利用方法は大変に有効な手段である。しかし、アナログ的なスクラップも十分な資料になりうるのである。

手間はかかるかも知れないが、安価な情報整理の方法を鳥の新聞記事を例にとりて紹介してみようと思う。

●用意するもの

- ①切り取った新聞記事
- ②のり
- ③裏が白い紙、又はルーズリーフ (A4、B5)
- ④26穴用のパンチ、又は30穴パンチ
- ⑤バインダー、又はフラットファイル

以上がスクラップに使うものである。これを読んで新聞記事を整理してみようかなと思う方はA4サイズの紙をお薦めしたい。私が高校生の頃は、A4サイズの紙があまり多くなく、B5版の台紙を利用していたが、大きな記事は端を折らないとはみ出してしまうので少々扱いにくい。大概の記事はB5版で収まるが、A4サイズであれば殆どの記事がそのまま貼れる。公的文書などはA4版が主流になっているようなので、裏紙も入手しやすいと思われる。

記事を貼る台紙はルーズリーフ式であれば何でも良いので、市販のものを購入してもよいが、節約と再利用を兼ねて裏紙を使うと安価である。ただし、

表面が多少わずらわしいかもしれない。

ルーズリーフ用の26穴パンチ (B5用)、30穴パンチ (A4用) は大きな文具店で売られている。メーカーによって差はあるが大体2000円前後で購入できる。

●張り付けて分類してみよう

切り取った記事は、スクラップを続けていると当然どんどん増えていくものである。初めは大まかに分けていたものも、量が多くなるとより細かい分類が可能になる。脊椎動物の記事の場合は、生物分類の「目」や「科」のレベルで分けると扱いやすくなるのではと思う。鳥の新聞記事は脊椎動物の中で最も掲載されている機会が多く、特に人気のある鳥は顕著に偏っている。コウノトリ目やカモ目、ワシタカ目などは、それだけでファイルが一杯になってしまうくらいである。その他、干潟関係や探鳥地紹介なども同じように整理できると思われる。

●スクラップがオリジナル図鑑へ

移動可能なルーズリーフでスクラップを作っていくと、自分だけが持っているオリジナル資料図鑑が出来上がってくる。記事として紙に貼れない資料は、クリアポケット等を利用すればまとまりやすくなる。

例えば、読売新聞で連載されている日曜版の「野鳥たち」(山形則男さん)の記事は、鳥好きの方ならば切り取っている人も少なくはないだろう。こういった記事も集まると日本産鳥類のかかなりの種類をカバーできることが多く、限りなく図鑑に近いものになってくる。その中に自分の観察記録や調べたことを足していけば、素晴らしいデータベースが出来上がっていくことと思う。参考までに私が1989年から始めたスクラップで、新聞に載った野鳥の種類は日本産の鳥で200種余りとなった。

●教育機関での応用

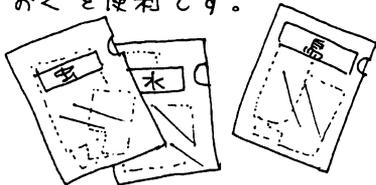
私が小学生の頃、長期休みに新聞記事の切り取りを自由研究課題にしている仲間がいた。スクラップ

ルーズリーフ を利用した スクラップ[®]

①用意するもの



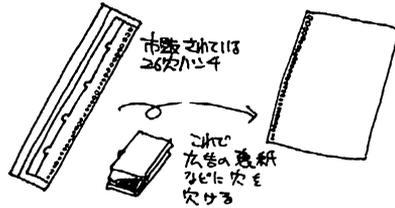
切り取った記事をすぐに整理できない時は、クリアファイル等に分類しておくとも便利です。



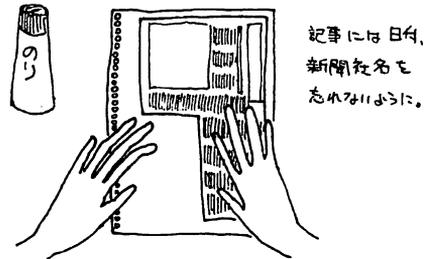
記事を貼る紙はルーズリーフのタイプであれば何でもOK。一枚一枚が移動できることが重要です。



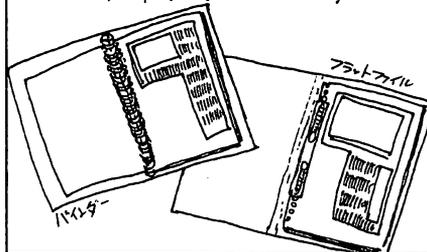
裏の白い紙を再利用すれば安価です。しかし多少の手間がかかります。



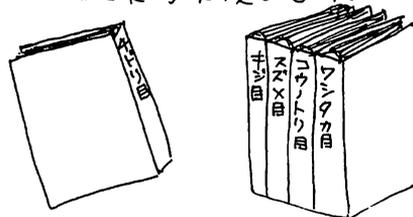
②新聞記事を貼ります。



③バインダーキフラットファイルに入れます。



④同じテーマの記事が増えたら分類します。



の整理方法の仕方を何らかの形で子供のうちにアドバンス、指導が出来れば、長期に渡ってスクラップを続けていく習慣を持つ人も増えていくのではないだろうか。特に、生き物を始めとする自然科学に関する新聞記事に興味を持ってもらえれば、それがそ

のまま環境教育の教材の一つになりうるのではないかと考える。

手間はかかるかも知れないが、時間が経てば経つほど貴重な資料となるスクラップに新たな可能性を見い出していきたいものである。

書評

『賢治鳥類学』

赤田秀子、杉浦嘉雄、中谷俊雄著 1998年5月
(株)新曜社 定価(本体) 3,300円

事務局 箕輪 多津男

宮沢賢治の数々の作品を読み解く上で、大変重要な存在としてあげられるのが、実に頻繁に登場する様々な動物たちである。その中でも、殊に象徴的かつ多様な現象として、読者の心に飛び込んでくるのが鳥たちである。

そしてここに、賢治作品における鳥類事典とも言べき一冊の画期的な書物が生まれた。その名も『賢治鳥類学』である。

著者は、それぞれ宮沢賢治研究会や宮沢賢治学会によって結ばれ、かつ、野鳥観察においても十分なキャリアを誇る三名の方々である。もちろんその中の一人は、本誌でもお馴染みの全国愛鳥教育研究会の杉浦嘉雄副会長である。

本書は、約400ページにも及ぶ大著となっているが、大変読みやすく書かれている。内容の特徴として画期的なことは、賢治作品に登場する鳥類を網羅している点と、そしてそれぞれの鳥に関する現実の生態から論を進めている点である。実に丹念な記述がなされており、単に鳥の生態を知ることだけを目的に本書を繙いたとしても、十分それに応えてくれるだけの内容となっている。

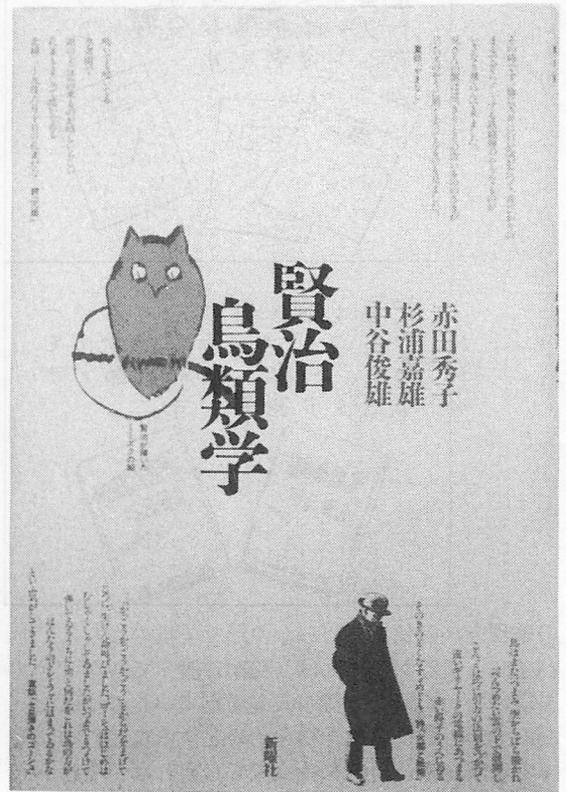
構成面では、登場する鳥類を大きく「身近な鳥」「家禽類その他」「水辺の鳥」「山野の鳥」の4つに分け、原則として一項目につき一鳥種を扱う形で、それぞれが独立した論として完結している。従って興味の趣くままに、どの項から読み始めても楽しむことができる。また、全編にわたって、鳥類の登場する賢治作品の原文からの引用が数多くなされており、逆にそれを元に、改めてそれらの作品を読み直してみることも一興であろう。

さらに巻末には、「宮沢賢治とバードウォッチング」と題して、賢治の全作品及び草稿群に登場する鳥類が、五十音順にリストアップされており、鳥種をキーワードとして原本をあたる際の有力なガイドとなっている。

巻頭にある16枚分の美しい口絵、及び本文の挿絵

は、「野鳥シート」でもお馴染みの松原巖樹画伯の手によるものであり、本書に一層の彩りを与えている。

宮沢賢治の世界に生息する鳥たちは、現実の鳥そのものの生態を有するものや、心象世界独自の幻想的な生き様を見せるものなど、虚実混淆の現象をそこに創造している。本書を繙きながら賢治と鳥の関係について思いを寄せる時、そこに新たな世界への扉が開かれるのを、読者の誰もが実感するに違いない。



教材開発

シギ・チドリ類観察用ワークシート

常務理事 平田寛重

谷津干潟で観察会に合わせて、シギ・チドリ用の観察ワークシートを作成しましたので、紹介します。

1. 干潟での野鳥観察の注意事項

①時間帯

潮時の関係で鳥が観察しやすい場合としくい場合がある。満潮時は、餌の視認がしづらく、また、水深が深すぎると餌を採ることができないので、シギ・チドリの仲間は移動してしまい、観察することができない。

また、干潮時は、遠浅の干潟の場合、どこでも餌が採れるので鳥は多い反面、広範囲に分散してしまい、人のそばにはなかなか寄って来ない。そのため、間近に観察することが難しい。

ということで、干潟でのシギ・チドリ類の観察には、干潮から満潮にかけての時間帯が適していると言える。この時間帯は徐々に潮が満ちてくるため、汀線付近で餌を採るシギ・チドリ類は、潮と同じように徐々に岸辺に近寄って来る。そのため、夢中で餌を採っているうちに、知らずに人の近くに來てしまうことになる。この時が、最も人が鳥と近づける時である。あまり鳥を驚かさないように観察しよう。干潟の観察では、双眼鏡はもちろんのこと、鳥との距離が遠いために望遠鏡も欠かせない。

②季節

シギ・チドリ類を中心に観察をするのであれば、4月から5月にかけての春の渡りの時期と7月末から9月にかけての秋の渡りの時期がよい。その他、冬には越冬するハマシギやダイゼン・シロチドリなどを観察することができるが、種類数は多くない。

春の時期は、きれいな夏羽の個体が多く、凶鑑などをたよりに同定もしやすいが、秋の場合は、わかりにくい冬羽や幼鳥の個体が多く、同定に苦労する。特に、ジシギ類の同定は、どれもみな同じに見えてしまう。よくわからなければ、ジシギsp.としておいたほうが無難である。慣れてくれば、次列風切り羽の先端が白帯になっているタシギはわかるよ

うになる。

2. 観察の視点

(1)シギ・チドリ類かどうかの識別

図1：干潟で見られる鳥の仲間（シルエットで仲間分けをしよう）

この図を使いながら、ぱっと見て、お目当ての鳥がシギやチドリかどうかを見分けよう。

ポイントは、全体の大きさ、嘴の長さや形、足の長さや指の形、広げた翼の形などである。特に、シギやチドリの仲間は、嘴の形が特徴的であるので、そこを重点的に観察するとよい。

(2)シギ・チドリの識別

シギ・チドリ類であることはわかったので、次はお目当ての鳥がシギなのかチドリなのか見分けよう。

嘴の形が先端に向かって徐々に細くなっているのがシギの仲間、根元から同じような太さで先端近くまできて細くなっているのがチドリの仲間である。

シギには、嘴がほぼ真っ直ぐなタイプ、下に反ったタイプ、上に反ったタイプがある。中には、ヘラシギのように先がへら状になっている珍しいタイプもある。チドリの場合は、国内のものは、みな真っ直ぐである。

(3)種の識別

シギ・チドリの識別ができれば、次は種の識別をしてみたい所であるが、初心者の場合は、おおざっぱに、観察頻度の高いハマシギやキアシシギなどの種類がわかれば上出来である。

詳しい識別の仕方については別の機会に委ねるとして、今回は、おおざっぱな見方として、大きさによる仲間分けをしてみよう。

大きさについては、シギの場合、「ものさし鳥」を作っておくと便利である。ダイシャクシギ・チュウシャクシギ・キアシシギ・トウネンの4種類を設

定しておくと、わからないシギが出た場合に、キアシシギぐらいとかキアシシギとチュウシャクシギの間ぐらいなどと表現することができ、第三者にも伝えやすい。

チドリの場合には、一番小さいコチドリ、少し大きいイカルチドリ、ムナグロ、ダイゼン、ケリというように大きくなっていく。わかりにくいのは小さなタイプで、コチドリとイカルチドリの大きさの違いがわかるようになれば、識別もだいぶ進んでいく。

シギの場合、嘴の長さも識別する上で重要なポイントである。嘴の長さを頭の大きさと比較して、頭何個分というような表現をすることにより、識別力をつけていくことができる。

図2のシギ・チドリ観察カード1を見ると、ダイシャクシギは頭3個分、オオソリハシギは2個分、ハマシギは1個分というように尺度を与えると見方も変わってくる。実際に観察しながらチュウシャクシギは2個分、トウネンは1個分弱などと見ることができる。

また、足の色もポイントになる。しかし、泥で汚れていたり繁殖期と非繁殖期とで色が変わったり、中間色があったりする。アオアシシギなどはアオアシと言っても多少緑っぽい黄色というような感じがする。トウネンやハマシギの黒、ツルシギのオレンジ、ヒバリシギやキアシシギの黄色、セイタカシギの珊瑚色などがある。

この他、翼帯や腰の色・模様のパターンで仲間分けをすることができる。シギ・チドリ観察カード2の下欄を見ると、代表的な飛翔パターンの絵が描かれている。

背が無地のキアシシギ、背から腰にかけて白いアオアシシギ、腰だけが白いタカブシギやクサシギ、背だけが白いツルシギ、白い翼帯が目立つオグロシギやハマシギといった具合である。

参照→シギ・チドリ観察カード1

(4)行動観察

行動観察をすることで、餌の嗜好や採り方がわかるようになり、体の大きさやつくり、生息環境などとの関係が見えてくればたいしたもののである。

【採餌行動】

①採餌の方法

目視によって探す場合と嘴を水中や地中に突っ込んで探す場合がある。場合によっては水中に頭まで入れて採餌していることがある。この場合は、筆者の観察では目は閉じているようである。目を使って探しているかどうかを観察してみよう。

餌を探す方法は、表面でつまみ出したり、表面にある小さな餌をついばんだり、泥の中を探ったり、嘴を水の中につけて歩き回ったり走り回ったり、嘴を左右に振ったりして餌を探す方法などがある。

②餌の調理法

餌を捕らえてから飲み込むまでの動作を調理法として観察してみよう。餌の種類にもよるが、水で洗ったり食べにくい部分（カニの脚など）を振り回してもぎ取ったりなどの方法がある。

その後は、餌をくわえながら飲み込んでいくことになる。

③餌の種類

何を餌として食べているのか観察してみよう。干潟に棲む水棲生物を食べている。カニ、ゴカイ、魚、貝などがその主なものである。餌の種類から食物連鎖の一部がわかり、自然の中での生き物同士のつながりが見えてくる。

参照→シギ・チドリ観察カード1

【その他の行動やしぐさ】

その他の比較的好く見られる行動やしぐさについて観察してみよう

①伸び

伸びには3つのタイプがあり、片翼を伸ばしながら片足も伸ばす方法、頭を下げながら両翼を真上に伸ばす方法、両翼を少し開き気味にして肩の上ぐらいで止める方法が見られる。1種の鳥で3つのタイプをすべてやるかどうかは不明である。また、両翼伸びの場合、異なった2つの方法のどちらもやるのかはわからないので、観察の課題にしてみよう。

②頭掻き

頭掻きは、頭を掻いているように見えるが、人のように頭がかゆくてかくのではなく、足指を使って羽の並びを整えるために行われている。

頭搔きには、直接足を体の外側から頭にもってくる直接法と、間接的に翼の間を通して間接的に頭へ足をもってくる間接法とがある。

チドリ類は間接法、シギ類は直接法が行われる。しかし、セイタカシギはシギという名前がついても間接法を行い、チドリと同じ仲間のようにも見ることができる。

③休息

休息は、おおまかに3つのタイプに分けられる。目を開いたまま立ち止まって、じっとしている場合は普通の休息、立ち止まって前を向いたまま目を閉じた場合は浅い眠りの時、目を閉じて頭を背中の上に乗せたり、一部を羽の中に潜り込ませたりという場合は深い眠りといえる。中には、目を開いたまま頭を背中の上に乗せている休息もある。

④争い

争いには、餌をめぐる取り合いによって起こるものが多い。一つの餌を複数で争ったり、横取りしたりしたりする。また、自分の採餌スペースに入り込んできた個体を威嚇する場合もある。羽を広げて声を出して威嚇したり、飛び上がったたり突き合ったりする。

シギ同士の場合やシギとカモメ、シギとサギなど餌の好みが重なる種間での争いが多い。

参照→シギ・チドリ観察カード2

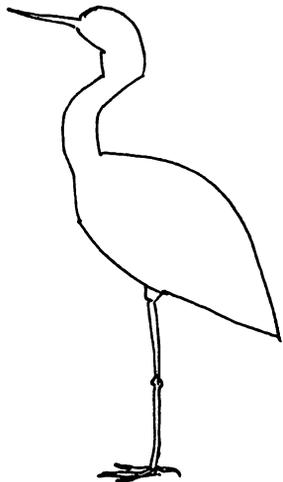
特に、餌の横取りについて観察していき、取るもの取られるものの相関関係を図面に表していくとおもしろい。

参照→シギ・チドリ観察カード1

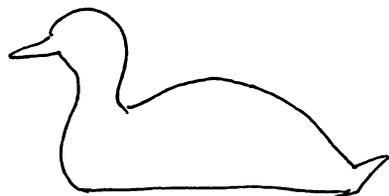
干潟で見られる鳥の仲間 199 年 月 日 名前：

シルエットで仲間分けをしよう

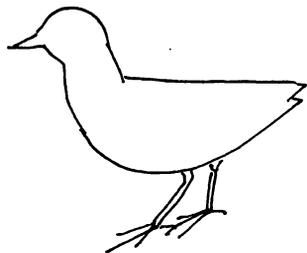
サギの仲間



カモの仲間



バンの仲間



カモメの仲間



シギの仲間



チドリの仲間



シギ・チドリ観察カード1

種名: _____ 観察日: 199 年 月 日 時

観察場所: _____ 天気: _____ 観察者: _____

採餌行動

嘴の長さの見本

①嘴の長さ

あなたが見た鳥は頭の長さの何倍かな?
(_____ 倍)

3倍: ダイシャクシギ	2倍: オオソリハシシギ	等倍: ハマシギ
		

②餌の種類

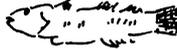
カニ類

ゴカイ類

魚類

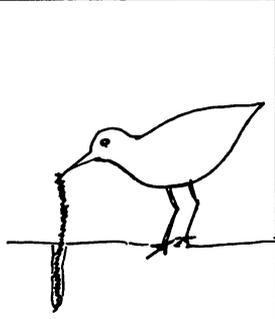
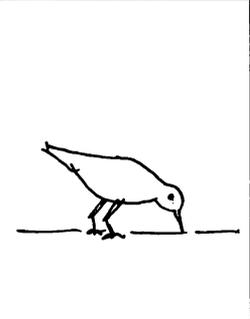
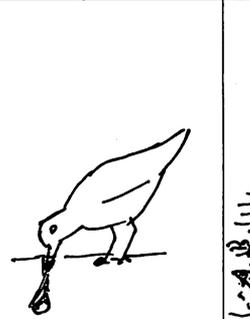
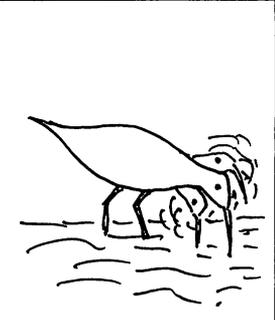
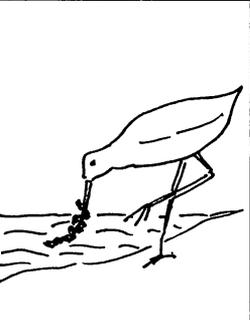
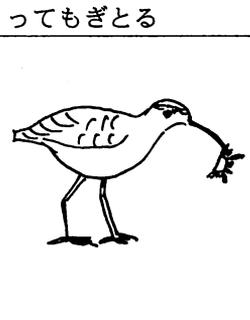
貝類

その他 (_____)



③採餌場所 ・水のたまった所 ・湿った土の所 ・乾いた土の所 ・その他 (_____)

④餌の探し方 ・嘴で探す ・目で探す

⑤採餌方法			
表面でつまみ引き出す	泥の表面をついばむ	泥の中をさぐる	嘴を水につけて走る
			
採餌方法		調理方法	
嘴を水中に左右にふる	水で洗う	嘴でくわえて左右に振ってもぎとる	その他
			

⑥横取り 餌を横取りされた(何に?)

餌を横取りした(何から?)

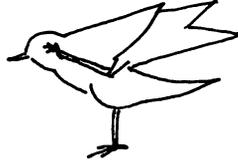
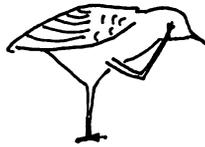
シギ・チドリ観察カード2

鳥たちの行動を観察しよう

①頭掻き

・直接頭掻き

・間接頭掻き

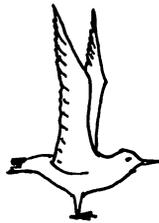


②伸び

・片伸び

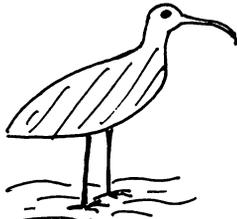
・両翼上伸び(真上)

・両翼上伸び(肩)

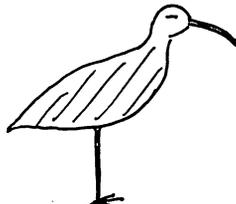


③休息(眠るも含む)

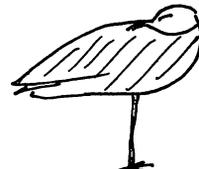
居場所：水面の上・土の上 / 足は1本か2本か? / 臉の閉じ方(上から・下から)



休息



浅い眠り



深い眠り

④争い

・同種

・異種(種名:)

原因? :

どんな争いをするのかな? :

観察記録:

⑤翼帯の模様: 翼を広げた時に見られる模様を見てみよう。



タカシギなど



ツルシギなど



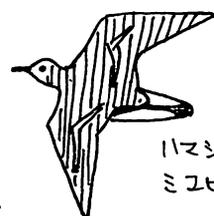
キアシシギなど



マオアシシギなど



オクシギ
オバシギ
サルハシギなど



ハマシギ
ミユビシギなど

教材開発

谷津干潟での野鳥観察を中心にした遠足プラン

—大規模定点指導型探鳥会の試み—

常務理事 平田寛重

環境教育がさかんになっているこの時代、遠足も従来の施設見学を主とする内容とは異なった、施設を利用して自然体験を重視したプログラムを組み込んだエコツーリズムとして計画してはいかがだろうか。

○教科学習としての扱い

エコ遠足は、教科学習の扱いとしては、理科や生活科での取り組みと連動させることができる。内容によっては、社会や国語の取り組みもできる。また、今後取り組まれることになる総合学習の場としても有効に活かすことができる。

例えば、国語の要素を取り入れて考えてみたい。

現行（1998年度）の国語の教科書では、大阪書籍（4年）、学校図書（5年）の2社で、谷津干潟を舞台にした国松俊英氏の「わたり鳥のくる干潟」の一部が説明文の教材として採用されている。内容は、干潟の生態系についてまとめたものである。国語の学習で生態系のことを学ぶことができるのはよい機会である。知識として干潟の生態系を学び、エコ遠足で実際にその場所にてかけることで、学習を更に深めることができ、干潟や渡り鳥、自然についての関心を高めることができる。

○場所とガイド

エコ遠足を実施するに当たっては、目的を達成するための環境が用意されている場所を確保することと、指導経験の豊富なガイドを募ることが重要になってくる。できれば、セルフガイドではなく、自然解説ができるガイドを各ポイントにあてがい、自然の素晴らしさを分かち合えるように進めることが望まれる。

場所としては、対象物である生き物を見ることができ、その生き物と周辺の自然環境が繋がっていることがわかりやすい場所であればよい。そのつながりの中に位置する生き物に触れたり、自然環境を身体で感じることであれば一層よい。

数十名を越える団体となるとそれなりの観察施設が整っていたほうが学習効果が一層期待できるが、日本では、このような教育施設が一般に十分に普及しているとは言えないのが現実である。(財)日本野鳥の会が関わっているサンクチュアリには、環境教育施設として作られている所があるので、利用するのもよい。

例えば、東京港野鳥公園などは環境教育施設としては整備されているが、子どもとともに自然を分かち合えるガイドが不足しており、学校等の団体が利用して10名前後に1名のガイドがついて指導していくまでには整備されていない。日本では、環境教育のニーズが高まってきてはいるが、まだ、ハード面でもソフト面でも、目立った進歩が見られていないのが現状である。市民の声として、ソフト面の切り札であるガイドの養成や常駐などの整備を行政に訴えていくことはもちろん、その必要性を市民に理解してもらえるようにしていくことも重要なことである。

以前、「愛鳥教育37号」で堤達俊氏が、東京港野鳥公園をフィールドとして遠足のモデルプランを掲載されていたが、自然教育施設をフィールドにして遠足を行っている例は、それほど多くはない。東京港野鳥公園の場合には、西と東に異なるフィールドがあり、ボランティアスタッフも豊富なので、それなりの取り組みが期待できるだろう。

筆者は、遠足において、小学5年生を対象に、神奈川県小田原市にある自然史系の県立博物館でのワークシートを使った見学学習と、神奈川県箱根町にあるやすらぎの森での常設の自然観察ウォークラリーを組み合わせた実践を行ったことがあるが、双方ともガイドが用意できず、セルフガイド式の体験学習を行ったに過ぎない。

野外学習用の施設と有能なガイドが揃わない現状において、実物を観察しての学習の取り組みができないのが実状である。一般の認識がまだまだという社会背景も作用している。

最近では、自然学習施設も徐々にではあるが、造られるようになってきており、レンジャーやボランティアガイドも増えつつあるので、それが、学校の移動教室とうまくタイアップできればと考えている。人材や学習内容などのソフト面の充実が望まれている。

以前からある東京の自然教育園などに加えて、建設中の野鳥の会のサンクチュアリ、千葉中央博物館の附属生態園など、利用できる施設は充実しつつある。東京都の葛西臨海公園では、水族園と野鳥園の施設を利用すれば、魚と野鳥の学習ができる。

しかし、このような施設には、団体向けのガイドが用意されていないため、施設をうまく活用できないジレンマが残る。有料のプロのガイド集団のようなものができればこのような自然教育施設の有効利用が進むのではないかと思う。子どもたちに自然との理解を深めさせるには少数での取り組みが不可欠である。10人に1～2人程度のスタッフをつけることができれば言うことはないのだが、費用的な問題が残る。ガイドのようなソフト面にもハードと同じくらいの価値を認めて、それ相応の料金を払うくらいの考え方も必要であろう。人々の考え方が変わり、ガイドの需要が伸びてこない充実したサービスがなかなかできていかないであろう。

(例)日本野鳥の会が関わるサンクチュアリのような施設が手近にない場合は、他の適当な場所を探さなければならない。レンジャーはあまり充実していないが、都道府県や市町村が造っている公園の中には、簡易型のウォークラリーができるように設定されている所がある。また、学習に適当な場所を探して、教師が設問や案内板を作ってセルフガイドで取り組むこともできる。

○谷津干潟でのエコ遠足プラン

今回は、谷津干潟をフィールドにしてエコツーリズム遠足のプランを考えてみたい。谷津干潟は、国語の教科書(2社)に登場してきており知名度も高くなっている。また、春・秋の渡りのシーズンには、多くのシギ・チドリ類が羽を休め、冬には、カモメやカモ、越冬しているハマシギやシロチドリなどの野鳥が常に見られるという好条件を満たしている。

ただし、干潟なので満潮時には、カモ類を除く多くの野鳥はいなくなってしまうので、日程を考慮す

る必要がある。また、谷津干潟の場合は、内陸に位置し、水路で海とつながっているため、干満の時間が海岸よりも2時間ほどずれることも頭に入れておかなければならない。

干潮から満潮にかけての時間帯に採餌している野鳥が岸に近づいてくるので間近に見ることができ。しかし、野鳥との距離は遠いので、双眼鏡や望遠鏡が必要になってくる。しかし、機材の準備は金銭的な面で難しい。

谷津干潟には、野外観察施設のほかに自然観察センター(有料、月曜休館)があり、展示コーナーと観察コーナーがある。展示施設にはなかなか工夫がみられ、効果的な学習も期待できる。

○モデルプラン

時期は4月下旬から5月中旬。参加者100人程度。潮の満干が適当でなければ午前と午後の日程を変更する。

【時程表】

PI9の通り。

1. 注意点

ガイドを多数集めることができれば、室内の見学と室外の見学とを午前と午後に分けることができる。それができなければ、室内と室外とを一緒に行うことで、長い時間を野外の観察に充てることができ、多くの子どもが野鳥とじっくり向き合うことができる。

まとめとして、最後に最も印象に残った野鳥のことを書かせるのだが、ただ、野鳥の絵を描かせるだけというのではなく、できれば、野鳥の行動に関する内容が描けるとよい。ワークシートにある設問も、行動面の観察があるので対応できると思う。しかし、形態面の印象が強い子どもの場合はこの限りではない。いずれにしても、シギ・チドリを知らない子にとっては、存在自体が十分なニュースになるのである。

この周回観察コースは1周が3.5km程あるので、普通に歩いて1時間、観察をしながらであれば2時間は必要であろう。谷津干潟は、いつでも鳥が見られる条件を備えているので、見方さえ工夫すれば、鳥とのふれあいは十分にできるので都合がよい。

ガイドは、現行のシステムでは、教師が対応せざ

時 間	児童の活動	指導上の留意点
学校発	○谷津干潟までバスで移動。 ○移動中のバス内で今日見られる野鳥等の事前学習をする。 野鳥に関連したクイズやパズルなどで楽しむ。	○ビデオを使って、その日見られる野鳥やカニなどの干潟の生き物について解説しておく。また、望遠鏡や双眼鏡の使い方についても触れておく。
10:00	○観察センター前に集合し、オリエンテーションを行う。	○教師はガイドになり、各ポイントに望遠鏡を持って移動する。
10:15	○前半のグループはしおりを持って、グループ毎に時間差をつけて観察に出かける。右回り、左回り両方から出かける。 しおりの指示通りに進み、観察ポイントで指示された観察を行いしおりの項目を埋めていく。 ガイドがいる所では、望遠鏡を見て、観察をする。 後半のグループは自然観察センターに入り、見学をする。 野外での観察やセンター内の見学が終わったグループは順次場所を入れ替えて、次のプログラムに取り組む。 ○昼食の時間が来たら、グループ毎に適当な場所で食事・休憩をとる。	○各ポイントで、指示された野鳥を望遠鏡で見られるようにセットしておく。 ○しおりには、ルートマップや設問を書いたワークシートが含まれている。 ○各ポイントでの観察時間を確保するために子どもの半分は自然観察センターでの見学をさせる。 ○食事を含めてのプログラムなので時間が来たら各グループ毎に適時食事をとるようにさせる。
13:30	○集合して、まとめの記録を書く。	○まとめとして、最も印象に残った野鳥の絵をしおりの欄に描き、その理由も書かせる。
14:00	○谷津干潟出発 学校着	

るを得ないだろう。学校が、地域のボランティアリーダーを活用して、一緒に遠足に同行してもらい、ガイドをお願いしたりすることも考えられるが、下見や打ち合わせなどの時間や予算の確保など障害となるものが多々ある。やはり、プロのガイドを雇うほうが賢い選択かもしれない。

2. バス内でのプログラムについて

バス内では、ビデオテープで谷津干潟で見られる

野鳥の紹介や干潟の性質や働き、底生動物、干潟の食物連鎖について事前に教えておきたい。また、望遠鏡や双眼鏡の使い方についても雰囲気だけはわかっていたほうが、誤操作をせずに済む。

時間があれば、干潟についてのクイズをビンゴ形式やクロスワードパズルの形式で行えば、子どもたちも楽しく過ごすだろう。

解説用の紙芝居があると説明がわかりやすい。

3. 野外での観察内容について

観察時間を考えながら設問の数を決定し、その中にガイドによる望遠鏡での観察を数カ所入れておけばよい。

設問の内容は、肉眼で観察できるものを主体にする。どこでも観察できるもの、場所が限定されただけでしか観察できないもの、望遠鏡を覗かなければわからないもの、人真似でなく自分が見ないと答えられないものなど、野鳥の形態や生態、食物連鎖などに関わる内容で構成する。国語で谷津干潟を学習する場合などは、そのあたりのことも考慮しておくとうい。

4. ワークシートの形式

ワークシートの形式は、9こか16このビンゴのマスを利用して行くと子どもたちも意欲的に取り組む。「干潟ウォッチングビンゴ」などとタイトルを入れ、始める前に適当な任意の数字を入れておき、該当の番号の設問の答えをマスに書いていく方法である。

5. いくつかの観察ポイント例の紹介

設問は、干潟の生き物を対象に、しばらく観察していれば誰でも答えがわかるような内容を用意しておくことが望ましい。ガイド役の教員は、望遠鏡をセットして子どもたちに設問の鳥を常に見せられるようにしておく必要がある。

今回は、シギ・チドリの観察を主に、観察ポイントを設定してみた。しかし、餌になるカニやハゼなどの小動物もシギ・チドリ類も、なかなか近くで観察できる機会が少ないので、肉眼でもわかるカモやサギについても問題を用意してみた。

双眼鏡がグループに1台でもあると、見ることができる世界がだいぶ広がる。

【シギ・チドリ関係の設問】

- ①(望遠鏡での観察)コチドリの目の周りの色は何色ですか?
- ②()ダイシャクシギのくちばしの長さは頭の長さのいくつ分でしょう?
- ③どろの中にくちばしをさしこんでいる鳥は、何をしているのかな? しばらくの間、見てみよう。
- ④カニをくちばしにくわえてふりまわしている鳥はいませんか? ふりまわして何をしているのか

な?

- ⑤とったえさを水であらっている鳥はいませんか? 何をあらっていましたか?
- ⑥コチドリやコサギが水の中で足をふるわせています。何をしていますのでしょうか?
- ⑦頭かきを見ましたか? 頭かきをするときに、足をそのまま頭に持ってくるのか、翼を横切ってもってくるのか、どちらでしたか?
- ⑧つばさを広げて伸び(身体を伸ばすこと)をしていましたか? 左右の翼を真上に上げていましたか? 左右の翼を肩の所まで上げていましたか? それとも片方の翼を伸ばしていましたか? どれですか?
- ⑨シギやチドリのなかまのくちばしを見ましたか? 真っ直ぐなタイプ、上に反ったタイプ、下に反ったタイプの3種類があります。あなたは、3種類とも見つかりましたか?

【シギ・チドリとつながりのある生き物についての設問】

- ⑩小さなカニが、あなのまわりに砂のだんごをつみあげています。何をしていますのでしょうか?

【シギ・チドリ類以外の鳥についての設問】

- ⑪この干潟で見た野鳥の足の色には、どんな色がありましたか。見た色を2つ書きなさい。
- ⑫ほかの鳥のえさをよこどりする鳥はいませんか? それは、どんななかまの鳥ですか? シルエット図鑑を見て答えなさい。
- ⑬(望遠鏡での観察)サギのなかまのくちばしの色は何色と何色がありますか?
- ⑭たんすい池などで見られるカルガモの羽の裏は何色ですか?
- ⑮たんすい池などで見られるバンの足は何色ですか?
- ⑯バンのおしりの白いもようを描きなさい。
- ⑰サギのなかまは、飛んでいる時に首を伸ばしていますか? それとも、ちぢめていますか?
- ⑱足を伸ばして飛んでいる鳥は、どんななかまでしょう? シルエット図鑑で調べてみましょう。

資料: 谷津のパフレット2枚、ビンゴ用紙、シルエット図鑑(シギチ観察シートを流用)

平成10年度 事業計画

事務局 箕輪 多津男

1. 「愛鳥教育」の発行

- (1) 55号、56号、57号を発行予定
- (2) 内容
 - ① 愛鳥活動の「実践報告」等を掲載。
 - ② 子供向け野外ワークショップの紹介。
 - ③ 論説では「現在における宿泊を通じた野外（自然）学習の在り方」等を掲載。
 - ④ 平成10年度夏期野鳥観察会、冬期野鳥観察会等の報告を掲載。
 - ⑤ 書評等を随時掲載。
 - ⑥ その他の事項。

2. 観察会・講演会等

- (1) 夏期野鳥観察会
期日：平成10年8月21日（金）
場所：谷津干潟自然観察センター
内容：①「谷津干潟の鳥たち」
谷津干潟自然観察センター 指導員
② 谷津干潟での野鳥観察
- (2) 講演会
期日：平成10年11月13日（金）
場所：東京都生涯学習センター・セミナー室
内容：「主観と客観のバードウォッチング」
講師：全国愛鳥教育研究会顧問 松田道生氏
- (3) 冬期野鳥観察会①
期日：平成10年12月13日（日）
場所：都立水元公園
内容：野鳥観察とともに「ぬりえ」を実施する
- (4) 冬期野鳥観察会②
期日：平成11年1月31日（日）
場所：多摩川関戸橋付近
内容：小学校の教師の方を対象に、自然観察の方法等について学ぶ。

3. 常務理事会（開催予定）

平成10年4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、平成11年1月、2月、3月

4. その他の行事・審査会への参加

- <審査会等>
(1) 第50回愛鳥週間全国野鳥保護のつどい（鳥根県）

- 平成10年5月10日（日）
- (2) 愛鳥週間ポスターコンクール及び全国野生生物保護実績発表大会審査会（環境庁）
平成10年10月16日（金）
- (3) 全国野生生物保護実績発表大会（環境庁講堂）
平成10年11月または12月
- (4) 愛鳥週間野生生物保護功労者選考会（環境庁）
平成11年3月

<後援行事>

- (1) 助けたがやトラスト協会
「トラストバードウォッチング」
平成10年12月12日（土）兵庫島河川公園

全国愛鳥教育研究会 役員の入替わり

<退任>

- (常務理事)
・梅本 登氏（東京都日の出町）
- (理事)
・香月 桂子氏（神奈川県横浜市）
・西村 健一氏（静岡県藤枝市）
（ご逝去・2月）
・柳澤 信雄氏（北海道札幌市）
（ご逝去・3月）
以上4名

<新任>

- (顧問)
・松田 道生氏（東京都豊島区）
- (常務理事)
・堤 達俊氏（東京都町田市）
- (理事)
・井口 豊重氏（東京都杉並区）
・斎藤 一紀氏（山梨県高根町）
・皿井 信氏（愛知県豊橋市）
以上5名

全国愛鳥教育研究会役員名簿

(1998. 7)

	名 前	〒	住 所	TEL・FAX
	OFFICE	〒	OFFICE 住所	OFFICE TEL・FAX
顧問	柴田 敏隆	238-0032	神奈川県横須賀市平作5-3-20	0468-51-1670
	千羽 晋示	145-0064	東京都大田区上池台3-5-15	03-3727-0639
	松田 道生	170-0003	東京都豊島区駒込1-3-4-502	03-3946-2168 3946-2168
	柳澤 紀夫 連 盟	358-0002 160-0022	埼玉県入間市東町5-1-14 東京都新宿区新宿2-5-5 新宿土地建物第11ビル5 F	0429-64-1568 03-3225-3590 3225-3593
会長	江袋 島吉	154-0011	東京都世田谷区上馬2-13-6	03-3421-1708
副会長	渥美 守久 蒲郡市役所	443-0104 443-0045	愛知県蒲郡市形原町佃49-2 愛知県蒲郡市旭町17-1(蒲郡市教育委員会生涯課)	0533-57-3405 0533-66-1168 66-1184
	杉浦 嘉雄 日本文理大学	870-0872 870-0316	大分県大分市高崎2-16-8 大分県大分市一木1727	0975-46-6128 46-6128 0975-92-1600 93-2071
常務	岩淵 成紀 仙台市科学館	982-0801 981-0903	宮城県仙台市太白区八木山本町2-17-147アミ-がビル201 宮城県仙台市青葉区台原森林公園4-1	022-229-6078 022-276-2201 276-2204
	小野 紀之	146-0085	東京都大田区久が原3-14-22	03-3753-6484 3753-6484
理事	島田 利子 渋沢小学校	259-1305 259-1322	神奈川県秦野市堀川599-3 神奈川県秦野市渋沢291-1	0463-88-5032 0463-88-7066 87-4251
	染谷 優児 学習院初等科	184-0001 160-0011	東京都小金井市関野町2-1-5 ハイツ三明101 東京都新宿区若葉1-23	042-380-8102 380-8103 03-3355-2171 3355-2675
理事	堤 達俊 川和東小学校	194-0203 224-0051	東京都町田市関師町947-3 神奈川県横浜市都筑区富士見が丘21-2	0427-91-6689 045-942-8130
	長屋 昌治 第三松江小	266-0016 132-0021	千葉県千葉市緑区椎名崎町876-1 おゆみ野11-46-3 東京都江戸川区中央4-13-1	043-292-7420 03-3653-5348
	平田 寛重 成瀬小学校	259-1105 259-1114	神奈川県伊勢原市大住台3-7-19 神奈川県伊勢原市高森1481-3	0463-96-5688 0463-95-2360 91-9474
監事	徳竹 力男	116-0012	東京都荒川区東尾久6-40-2	03-3895-3609
	村口 未弘	154-0004	東京都世田谷区太子堂5-32-17	03-3412-3186
理事	浅沼 和男	100-1101	東京都三宅島三宅村神着218	04994-2-0262
	井口 豊重 第六中学校	167-0021 180-0022	東京都杉並区井草2-18-14 東京都武蔵野市境3-20-10	03-3390-5662 0422-53-6311
	斎藤 一紀	407-0301	山梨県北巨摩郡高根町清里3545 (BIRD HOUSE)	0551-48-3148 48-3148
	皿井 信	441-8106	愛知県豊橋市弥生町西豊和65-4	0532-45-8896
	武石 千雄	897-4413	大分県玖珠郡玖珠町塚脇東町426-10	09737-2-2202 2-2202
	田中 忠	862-8017	熊本県熊本市上南部町1318-21	096-380-5301
理事	林 梅夫	939-1355	富山県砺波市杉木37	0763-32-9527

論 説

手で触れる自然接触について

常務理事 平 田 寛 重

今回は、自然を直に体感する自然接触、その中でも「手で触れる行為」について考えてみたい。

自然とのふれあいという言葉は、ちまたにあふれているが、自然の豊かな場所に行き、目で緑を楽しむといった程度のものがほとんどといってもよいくらいである。人間が持つ五感のうち視覚だけにとどまり、その他の触覚、聴覚、嗅覚、味覚などの感覚はあまり問題にされていないのが現実であろう。しかし、自然の中に出かけていき、自然との関わりを持ち、ふれあうというのであれば、五感全てを意識的に使う取り組みをしていかなければ、せっかくの機会も有効に活かされることなく過ぎ去ってしまう。

五感の感覚のうちでも身体、特に手を使った接触は、発達期の子どもたちにとっては、とりわけ重要な体験になると思われる。触ることによって、ざらざらやぬるぬる、すべすべやとげとげなどの感覚が経験でき、さらに命が持っている温もりや冷たさを知ることができる。広く動物全般に触ることができれば、それらの動物への違和感は、だいぶ薄らいでいくと思われる。

アリ、テントウムシ、バッタ、トンボ、チョウなどの昆虫、カタツムリやナメクジなどの軟体動物、アメリカザリガニやカニ、ドジョウやフナなどの魚、イソギンチャクやカイメンなどの海の生物、トカゲやヘビ、カメなどの爬虫類…。

挙げていけばきりがながい、例えば、ヘビのあのさらっとした冷たい感覚は触ってみなければわからない。反対にカエルは、ねっとりしている感じがある。鳥の羽毛の感じや触った時の体温の暖かさ、哺乳動物の毛も触ると独特の手触りや暖かさがある。

このように、より多くの生物に触ってそれぞれの命を感じてもらいたい、どの子にも同じように生き物を触らせるとなると、触られる生き物のストレスが高まってしまい、これも好ましくない。できれば、このような体験は、家族単位で親から子に伝えていくべき体験として取り組んでもらいたい。集

団的な教育の不得手とする領域であるからである。

しかし、野生の動物に触れる機会があればよいというものではない。一部にはふれ合うことが商業化されているものもあるが、野生は野生として尊厳すべきものであって、その意味で人が安易に触れること事態に問題があると言える。人と動物が仲良くするということは、決してそういうことではない。

触られることは、動物によってはかなりのストレスになることを常に頭に入れておく必要がある。遊び気分で見くり回したりすることで命を落としてしまうものもあるので、細かい注意が必要である。

哺乳動物や鳥に触るといえるのであれば、家禽や家畜で十分である。近所の農家や知り合いの家でそのような機会が持てるのであれば、それらを有効に利用すればよい。ただし、人間に感染する病原菌も保有していることがあるので、触った後の皮膚の衛生には気を使う必要がある。

もっとも、子ども相手のワークショップで10名未満を相手にガイドをしているような状況であれば、鳥の死体やヘビを見つけた時に、みんなで触り、感触を経験することができる。しかし、このような取り組みはマニュアル化できるものではなく、偶然性とガイドの力量とによることが多い。

生物との皮膚を通しての接触は、彼らを理解するためには大変効果的な方法である。しかし、危険の有無を調べ、触る意味、意図的に触らない勇気などを踏まえて取り組むことにより、自然理解はさらに進んでいくのである。

＜全国愛鳥教育研究会 主催＞ 講演会のご案内

『主観と客観のバードウォッチング』 ～傾向と対策～ 講演 松田道生氏

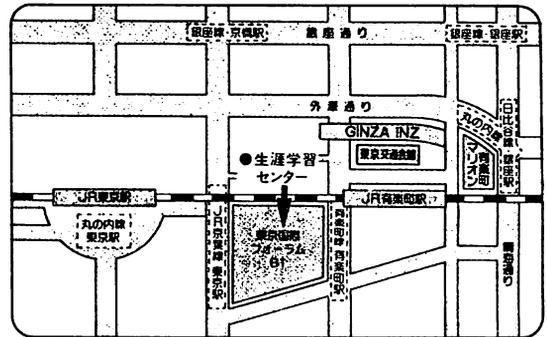
全国愛鳥教育研究会では、標記の通り「講演会」を企画いたしました。

特に今回は、当研究会の顧問を務めていただいている松田道生氏を講師としてお迎えし、鳥を観察すること（バードウォッチング）の楽しさやその意義、普段気が付かないような鳥の世界の不思議なエピソード、あるいは歴史から導き出される日本人の自然観などについて、大変興味深いお話を、わかりやすく語っていただく予定です。

少しでも鳥に興味のある方はもちろん、これまでほとんど鳥のことを知らなかったという初心者の方まで、どなたでも、どうぞお気軽にご参加ください。ただし、先着30名で締切となりますので、お申し込みはお早めにどうぞ。きっと、新しい発見があなたを待っています。

記

1. 日時 平成10年11月13日（金）
19:00～20:50
2. 場所 東京都生涯学習センター・セミナー室
3. 参加費 500円（※当日会場にてお支払いください。）
4. 持参品 筆記用具 等
5. 日程
18:30～18:55 受付
19:00～19:05 主催者あいさつ
19:05～19:20 全国愛鳥教育研究会・活動紹介
19:20～20:50 講演『主観と客観のバードウォッチング』
講師：松田道生氏
20:50 閉会



東京都 **生涯学習センター**

TEL 03-3212-5757

〒100-0005 千代田区丸の内3-5-1 東京国際フォーラムB1

FAX 03(3216)4526

◆参加申し込み方法◆

下記事務局まで、はがき、電話、またはFAXにてお申し込みください。

〒160-0022

東京都新宿区新宿2-5-5

新宿土地建物第11ビル5F

(財)日本鳥類保護連盟内

全国愛鳥教育研究会・事務局

担当：箕輪(みのわ)多津男

TEL. 03-3225-3590

FAX. 03-3225-3593

地域型環境イベント

地球と遊ぼう '98 in 都立水元公園

地球にやさしくしていますか

日時 平成10年12月13日(日)
10:00 ~ 16:00
場所 東京都葛飾区 都立水元公園
受付 水元公園緑の相談所

公園全体を大きな環境テーマパークに見立て、当日訪れた人々には、『ポイントマップ』を配布します。自然観察、バードウォッチングやネイチャーゲームなどをごく自然な形で体験できるポイントを設定し、各自の興味や関心に応じて自由に回ってもらいます。

その他、池の水や水生生物の様子を通じて生活排水や水のリサイクルについて考えてもらったり、ゴミ集めに参加してもらったりすることで、ゴミ問題についても知ってもらえるようにします。

従来のように何かを教えようとするのではなく、自分たちが参加した活動や体験から感じてもらうことに重点を置いています。また、すべて遊び感覚で気軽に体験してもらいます。そして、自然環境、都市環境の垣根を越えて、広く環境に関心を向けてもらうためのきっかけとしていきたいと考えています。

当日の指導をはじめ、準備は東京都環境学習リーダーをはじめ、地域で活動しているグループのスタッフが中心となります。イベントとしては1日限

りのものですが、当日興味を持った人たちの今後の活動をフォローしていくためにも地域メンバーを前面に出していきます。

参加者には、いくつかのポイントを回ったあとに、緑の相談所の最終受付に来てもらい、その場で参加賞として「野鳥ぬりえセット」などを渡します。

後日、改めて水元公園を訪れてもらい、ぬりえを完成させたら、応募票（セット内に同封、小学生以下対象）とともに緑の相談所に持参、提出してもらいます。

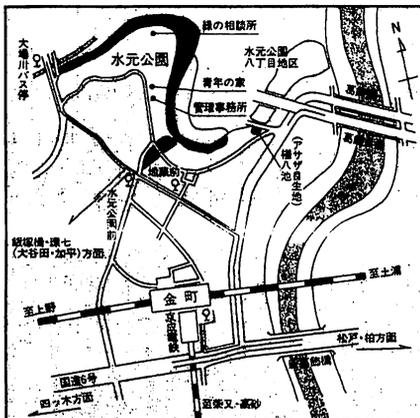
全国愛鳥教育研究会の会員の皆さんは、一参加者としてお楽しみください。もちろん、指導者としてお手伝いいただければ幸いです。

主催 地球と遊ぼう'98実行委員会
共催 水元公園緑の相談所
全国愛鳥教育研究会

◆参加申し込み方法◆

事務局まで、はがき、電話、またはFAXにてお申し込みください。(P24参照)

水元公園への交通



所在地 葛飾区水元公園2番~8番
面積 68.2ha (1996年6月1日現在)
交通 JR常磐線(千代田線直通)または京成線 金町駅下車
南口バスターミナルから京成バス戸ヶ崎操車場行き 水元公園下車徒歩7分
駐車台数 1,133台
催物 4月 こどもまつり(葛飾区主催)
6月 花菖蒲まつり(しょうぶまつり実行委員会主催)
園内施設 駐車場 TEL 3608-5194
青年の家 TEL 3600-0245
涼亭(集会所) TEL 3608-2261
釣りの家(貸船) TEL 3600-2757

問い合わせ先 水元公園管理事務所 TEL03-3607-8321/ 発行 北部公園緑地事務所 1998.12月

自然観察指導法研修会のご案内

平成11年1月31日(日)、多摩川(関戸橋付近)において、小学校教員を対象にした自然観察の指導法についての講習会を予定しています。奮ってご参加ください。

◆参加申し込み方法◆

事務局まで、はがき、電話、またはFAXにてお申し込みください。

〒160-0022
東京都新宿区新宿2-5-5
新宿土地建物第11ビル5F
(財)日本鳥類保護連盟内
全国愛鳥教育研究会・事務局
担当：箕輪(みのわ)多津男
TEL. 03-3225-3590
FAX. 03-3225-3593

編集後記

55号をお届けします。

江袋島吉会長には、ご病氣静養のため、今回の巻頭言はなしといたしました。ご了承ください。なお、現在はご健康を取り戻され、常務理事会にもご出席いただいております。

今年度は、従来の考え方を変えるような各種の自然観察会や講演会を事業として展開することにしました。

愛鳥教育は、単に学校教育の範囲にとどまるものではありません。その意味で、一般社会とのつながりにも配慮したものも企画しました。

一方、野鳥観察は自然観察の手法として優れたものであるのは言うまでもありません。その意味で、更に野鳥観察についても深めていけるようにと、松田道生氏の講演会を手始めに行うことにしました。

教員対象の指導法そのものの講習会も計画しています。

会員の皆様からも、どしどしご希望をお寄せいただきたいと思います。

(染谷)

愛鳥教育 No.55

平成10(1998)年10月31日

発行人 江袋島吉
発行所 全国愛鳥教育研究会
住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-5-5
新宿土地建物第11ビル5F
(財)日本鳥類保護連盟内
電話 03-3225-3590
FAX 03-3225-3593
会費 3,000円
郵便振替 00180-7-12442
印刷所 祐文社

愛鳥クイズ

【前回54号の問題】

前回は、子育てや巣作りについての問題でした。

1. 日本で子育てをする鳥の中で、お父さんがすべて面倒をみるのは、ミフウズラとあともう一つ何でしょう。
(ヒント：なぜかこの種の鳥は雄より雌のほうが派手なのです。)
2. 日本で子育てをする多くの鳥は雄も雌も雛に餌をやります。しかし、中には雄はひたすら鳴き続け、子どもの面倒をみない鳥もいます。それは次のどれでしょう。
①ツバメ ②ウグイス ③スズメ ④キジバト ⑤ハシボソガラス
3. 雄と雌が協力して巣を作る鳥もいれば、雄はなわばり確保のために鳴き続けたり、雌のボディガードをしたりして、メスが一羽で巣を作り続ける種類もあります。雄と雌が協力して巣作りをするのは、次のどれでしょう。
①キジバト ②シジュウカラ ③ツバメ ④スズメ ⑤ムクドリ
4. 鳥の中には、生まれるとすぐに歩き出せる種類もあれば、赤裸で目もあいていない種類もあります。次の中で、生まれるとすぐに歩き出す鳥はどれでしょう。二つ選びましょう。
①キジ ②カワセミ ③ヒバリ ④カルガモ ⑤トビ
5. 日本で巣箱を使って子育てをする鳥は20数種類です。では、巣箱を使ったことがない鳥は次のどれでしょう。
①フクロウ ②カワガラス ③オオルリ ④オナガ ⑤キジバト

【前回54号の解答】

1. タマシギです。日本を通過するヒレアシシギの仲間も雄が子育てをします。タマシギが繁殖する環境は、水辺という不安定なものであるため、水が干上がって餌が採れなくなったり大雨で巣が流されたりするなど、リスクの大きいことが考えられます。それで、雌が1羽で子育てをするよりも複数の雄がそれぞれの環境で子育てをすることにより、多くの雛を育てることができるという繁殖戦略をとったものと考えられています。
2. ②のウグイスです。これらの他には、セッカも雌しか給餌をしません。
3. ②以外の、①キジバト ③ツバメ ④スズメ ⑤ムクドリです。答えが4つもあって、発問がまずかったと思われる。本来は、「メスが一羽で巣を作り続ける種類はどれでしょうか。」とすべきでした。そうすれば、答えは②のシジュウカラとなります。シジュウカラは雌が巣作りをします。
4. ①のキジと④のカルガモです。
このことは、巣が地上にあって天敵に襲われる危険性の高い種類に多く見られます。
5. ④のオナガと⑤のキジバトです。答えが二つあることを指摘しなかったのは、問題作成上のミスでした。国内で巣箱を使った報告例は、オシドリ・シマフクロウ・コノハズク・アオバズク・フクロウ・アリスイ・ブッポウソウ・ヤツガシラ・キセキレイ・ハクセキレイ・カワガラス・アカヒゲ・キビタキ・オオルリ・ハシブトガラ・コガラ・ヒガラ・ヤマガラ・シジュウカラ・ゴジュウカラ・キバシリ・ニューナイスズメ・スズメ・コムクドリ・ムクドリの25種です。この中には、セキレイやキビタキのように前面が開いた巣箱もあります。

【今回の問題】

今回は、谷津干潟に出かけたので、シギ・チドリの生態や形態について考えてみましょう。

1. ちどり足ってどんな足？
酔っぱらいがあっちに行ったりこっちに来たりする歩き方を、なぜ「ちどり足」と言うのでしょうか。
2. ホウロクシギとダイシャクシギのちがいは？(腰がポイント)
3. ダイゼンのわきの下の色は何色？(似ているムナグロとの大きな違い)
4. コチドリとシロチドリの違いは？(首輪模様がポイント)
5. シロチドリとメダイチドリの違いは？(えりの部分がポイント)

